



地域でつながるワカモノ×NPO
インターンシッププログラム 2015

活動報告書



**WAKAMONO×NPO
INTERNSHIP PROGRAM**

目次

本報告書は、公益財団法人トヨタ財団 2015 年度イニシアティブプログラム助成事業として実施した「地域でつながるワカモノ× NPO インターンシッププログラム 2015」の成果をまとめたものです。NPO インターンシップの魅力や効果を感じていただくとともに、「参加してみよう!」「地域で実施してみよう!」といった行動に移すきっかけの 1 冊になることを願っています。

特別対談	2
公益財団法人トヨタ財団より	4

プログラム概要	5
1 年の流れ	8
プログラムの様子	9
受入団体の紹介	12

ワカモノ紹介	17
受入担当者メッセージ	38
インターンの活動訪問	40
成果発表会までの道のり	42
アンケート集計結果	44
1 期生の " 今 "	48

巻末資料	50
編集後記	53

※本書に掲載されている情報は 2016 年 3 月 31 日時点のものです。

特別対談

ーインターンという言葉のイメージは？

門倉：就職活動に必要なものととらえていて。NPOに関わってからは発見ができる場になりました。

手塚：見習いさん、かな。昔はインターンという言葉自体がなくて。ちょっとやってみたいときにやりたいのことができる。人生につながる入り口、体験の場。そんなイメージを持っています。

ー NPO でのインターンとは？

門倉：ひとことで、「視野が広がること」。大学1年生のときの夢は「大金持ちになる！」。そのために大企業に入ろうと思っていました。2年生の時には、東日本の復興支援に関わり、ゼロになったことを機に新しいチャレンジに繋がっている方々をみて、衝撃を受けました。

また、湘南遊映坐の岡さんとの出会いも大きかったです。新聞社を辞め、大学で勤めながら、

復興支援や、映画の活動をしている。インターンとして団体に関わってみたら、世の中に、楽しそう！充実してそう！と思う人がたくさんいて。

ー「人」が門倉さんに影響を与えたんですね。

門倉：結果、就職活動が全てじゃない。生き方を考えました。自分の心の中のミッションを持っていて、それを実現するために頑張っている人たちがいると。

手塚：もともとインターンは企業向けの言葉でした。社会的な活動そのものに興味関心をもつ、それがNPOでのインターンになるのではと。

また、企業では1つの企業から、他の企業を見通すことが難しいけれど、1つのNPOを通じて他のNPOや団体をみることができます。

ーなるほど。

Profile 手塚 明美 (てづか・あけみ)

1998年NPO法の制定をきっかけに、NPO支援の在り方を柱に、情報収集と発信を進め、NPOを中心とした非営利組織のマネジメント支援、ソーシャルビジネスの起業支援、NPOと他セクターとの連携支援に取り組んでいる。

認定NPO法人
藤沢市市民活動推進連絡会
理事・事務局長

手塚 明美



インターンシップで、「NPO」に関わるということ

手塚：総じて、「社会」でのインターンに。そもそも企業とNPOとの求める価値が違うのですが、社会につながるのが企業活動であれば、その前の入り口としての「NPO インターン」。社会に目を向けるためのフィルターの役割を果たせるのではないのでしょうか。

—あらためて、ワカモノ×NPO インターンシッププログラムの魅力とは？

手塚：NPOの支援という立場から、団体も育て欲しい。ワカモノも育て欲しい。あえて、二兎を追っています。わずかですが達成感は感じてきています。

—確かにそうですね。

手塚：ワカモノたちと接していて、未来が明るい！任せられる！と感じられた。地域やNPOの基盤強化にも繋がっている。それをもっといろんな人に知ってもらえたら。

門倉：地域でのつながりは力になります。東北で、藤沢で、連動できたらいいなと思い、今は地域の結びつきが強いところに就職活動しています。つながりを保つには、NPOが大事です！

—最後に一言お願いします。

手塚：このプログラムで目指す社会って「好き嫌いを自分で言えて、やりたいことを見つけられる社会」。

プログラムを通して、「探す力」「決める力」「選ぶ力」を身につけてもらえたら。生きていくなかで壁にぶつかったとしてもどうしていかかを考えられる人になってほしいと思っています。

門倉：そのために体験する、いろいろ知る場。それが「NPO インターンシップ」なんですね。

(2016年 藤沢にて)

Profile 門倉 啓介 (かどくら・けいすけ)

立教大学現代心理学部映像身体学科在学中。東日本大震災の復興支援活動を行う学生団体の代表を務めた。本プログラム1期生。15年度からワカモノアドバイザーを務める。

立教大学
映像身体学部3年

門倉 啓介



活動報告書に寄せて

公益財団法人 トヨタ財団
国内助成グループ
プログラムオフィサー

喜田 亮子



トヨタ財団では、将来、地域で民間の公益活動を担う人材のすそ野を広げていくことが重要と考え、2014年度から地域の中間支援組織が実施するNPOインターンシップへの助成をスタートいたしました。昨年の報告書では、プログラムを通じて、①各団体のミッションが明確化したこと、②横のつながりが生まれたことが成果ではないかと記載させていただきました。そのことに加えて、2年目となる本年について感じたことを報告させていただきます。

1. 働くことの意味

学生の成果発表の中で、印象的だった言葉がいくつかあります。「周りの状況を考えて行動する」、「自分にはない意見を大切にする」、「どんな仕事も誠意をもって取り組むことが信頼を生む」。長く仕事をするとかく忘れがちな働くことの原点に気づかされました。受け入れ団体や藤沢市民民活動推進連絡会の丁寧なコミュニケーションの結果であろうと思います。と同時に団体の皆様にとってもインターン生を受け入れることは、働き方の原点に立ち戻る良い

機会になるのではないかという印象を持ちました。

これから受け入れる団体の方々もぜひ、働くことをインターン生とともに考えていただければと思います。

2. 学生同士のコミュニティ

成果発表会は、学生一人一人が役割を持ち、すべて学生による運営で開催されました。このことは、特定の団体に個人としてインターンをするのとは違った学びにつながったと思います。こうした学生同士のコミュニティを受け入れ団体の方も上手に活用して、地域の中で新たな協働関係が生まれることをさらに期待したいと思います。

私どもの助成事業は、後1年間となります。本年も多くの方にご参加いただき、NPOが協力しワカモノを育てる知恵と技術が地域に定着することを期待します。

プログラム概要

概要

高校生・大学生・専門学生・大学院生からインターンを募集し、約6か月間継続的に責任を持ってNPOの活動に参加するインターンに対し、200時間を上限に活動奨励金を助成します。また、受入NPOに対してインターンと同額の受入奨励金を助成します。この経験を通じて、将来地域で行う公益的市民活動を担う人材が育成されること、そして地域のNPOにおける組織基盤の強化が進むことを期待しています。

プログラムの特徴として、高校生の参加と、受入NPOへの受入奨励金制度があります。若者が将来や進路について考える時期に市民活動を「経験する」と「経験しない」では後々の選択の幅に大きな違いがあり、社会人になった後の市民活動への関心や地域づくりにも大きく影響します。そこで、将来への種まきは早い時期に行う必要があると考え、本プログラムでは高校生をインターン参加対象に含めています。

また、若者とNPOをつなぐためには、まず受入NPO側でコーディネートを行う人材が必要です。インターン受け入れにより、必要なコーディネーターが育成されることで組織基盤の強化が期待できますが、受け入れに要した団体負担の対価として、インターンの活動報奨金と同額を受入NPOへ助成します。

目的

本プログラムは、社会貢献活動をできるだけ早い時期に体験し、市民としての役割を認識すると共に、社会生活を送る上での一つのテーマとして生涯にわたり積極的に社会貢献活動に取り組む市民を育成することを目的に以下の3点を柱に実施します。

柱Ⅰ

将来、社会的問題や地域課題の解決を進めるボランティア活動、市民活動、NPO活動などの公益的な市民活動を担う人材が育成されること



- ・市民活動に積極的に参加するような、これからの社会を担う社会人を育成します。
- ・企業とは違う非営利セクターの現状に目を向けることで視野を広げます。

柱Ⅱ

ボランティア活動、市民活動、NPO活動などの公益的な市民活動における組織基盤の強化が進むこと



- ・NPO等の自立化を支援します。
- ・NPO等のマネジメント能力を高め、ボランティアコーディネーション力の向上を進めます。

柱Ⅲ

本プログラムを他地区におけるNPO等の中間支援組織での展開に活かすこと



- ・他地区でのプログラム実施の参考資料として、プログラム実施報告書を作成します。

■本プログラム2つの特徴

高校生の参加

ワカモノが将来や進路について考える時期に市民活動を「経験する」と「経験しない」では後々の選択の幅に大きな違いがあり、社会人になった後の市民活動への関心や地域づくりにも大きく影響します。そこで、将来への種まきは早い時期に行う必要があると考え、本プログラムでは高校生をインターン参加対象に含めています。

受入 NPO への受入奨励金を導入

ワカモノと NPO をつなぐためには、まず受入団体側でコーディネートを行う人材が必要です。インターン受け入れにより、受け入れの際に必要なコーディネーターが育成されることで組織基盤の強化が期待できますが、受入に要した団体負担の対価として、インターンの活動報奨金と同額を受入 NPO へ助成します。

■コラム- NPO のこと -

NPO とはー NPO とは「Non-Profit Organization」の略称で、日本語では非営利組織と訳します。株式会社等の「営利」を目的とする組織とは異なり、営利を目的としない組織です。社会の多様化したニーズに応え、社会や地域の課題解決に向け、様々な分野（福祉、教育・文化、まちづくり、環境、国際協力等）で活動をしています。※1

どのくらいあるのかー NPO の中でも「特定非営利活動促進法（「NPO 法」）」に基づき認証された「NPO 法人」は、50,870 法人（※1）あります。この数は、全国のコンビニエンスストアの総店舗数に近い数字です。本プログラム事務局のある神奈川県では、1,478 法人（※2）、藤沢市は、195 法人（※3）があります。※参考までに日本の企業数は約 400 万法人（※4）です。

法律からみる NPO ー 株式会社等定める「会社法」は 2006 年に施行された際に一本化され、そのルーツは商法にあり明治まで遡ります。対して、NPO 法は 1998 年に施行された若い法律です。そう考えると、NPO 法人というスタイルはまだ発展途上であり、様々な可能性を秘めているとも言えるのではないのでしょうか。

地域の担い手としてー NPO は「産学官民」の「民」の部分を担当する存在として地域でも注目されています。最近では「協働」という新しい形のパートナーシップで、NPO をはじめ、企業、学校、行政等と連携する事例が増えています。また、有事（災害など）の際に力を発揮するボランティアをコーディネーションする役割も地域の NPO には求められています。

※1 出典：内閣府ホームページより

※2 出典：神奈川県ホームページより

※3 出典：藤沢市ホームページより

※4 出典：中小企業白書 2015 年度版より

■期待される地域への波及効果

ステークホルダー	効果など
ワカモノ (高校生・大学生・専門学生・大学院生等) 	・視野を広げ自らの住む地域に目を向けることができる。 ・社会生活において市民活動に積極的に参加するといったシチズンシップが身につくことができる。 ・地域の公益的市民活動が担う役割を理解することができる。 ・インターン機関の目標設定や成果により達成感や自信をつけることができる。 ・「自立」に対するモチベーション向上に寄与することができる。 ・将来的に、就職や目指す姿につながる人脈を見つけることができる。
受入 NPO 	・既存のメンバー・会員がインターン生の研修等の訓練に携わることによって、受入担当者（コーディネーター）の育成、経験を積むことができる。 ・インターン OJT 等で発生するスタッフ負担を受入報奨金により軽減することができる。 ・受入 NPO の社会的使命に共感し、新規メンバーや会員の獲得に結びつく可能性がある。 ・本プログラムに参加することにより団体の PR を行うことができる。 ・外からメンバーが入ることにより、斬新な意見や新たな視点を団体の活動に取り入れることができ、組織の活性化につながる。
実施地域 (藤沢市、湘南地区) 	・地域でボランティア活動に参加する若者を増え、市民活動が活発になる。 ・プログラム参加地域として、他の地域に周知することができる。 ・プログラム実施により、地域の学校と情報交換や共有を行い、連携強化を図ることができる。 ・本プログラムを参考に、学生が市民活動に参加しやすい仕組みづくりを構築することができる。
中間支援組織 	・中間支援組織スタッフのコーディネーション能力を向上することができる。 ・地域で活動する NPO との連携で、より NPO の活動状況を把握することができる。 ・本プログラムの実施報告書を参考に、地域独自のプログラムを作成することができる。 ・地域の若者へのアプローチができ、プログラム以外での企画でも協力関係が築ける。
公益財団法人 トヨタ財団 	・市民活動に携わる若者を増やし、日本の将来において、視野の広い社会人育成に貢献することができる。 ・「高校生を対象に含んだインターンシッププログラム」という、他団体が実施していない取り組みを拡げることができる。 ・公益財団法人トヨタ財団の設立趣旨や活動内容を全国に周知することができる。 ・本プログラム実施報告書を基に、全国の中間支援組織との関係が密接となり、今後の事業発展につながる。

1年の流れ

2015年

4月

広報

受入団体説明会
受入団体募集締切

5月

マッチング

インターンシップ説明会
ワカモノ募集締切

6月

インターン活動期間

オリエンテーション
インターン活動開始

7月

ワカモノ定例会①
受入団体座談会①

8月

ワカモノ定例会②

9月

中間発表会

10月

ワカモノ定例会③
受入団体座談会②

11月

ワカモノ定例会④

12月

ワカモノ定例会⑤

2016年

1月

まとめ

インターン活動終了
ワカモノ定例会⑥
合同定例会

2月

発表会リハーサル
成果発表会

3月

活動報告書提出締切



プログラムの様子

4月

広報

4日…募集開始

11日…受入団体説明会

20日…受入団体募集締切

5月 6月

マッチング

16日…インターンシップ説明会
 20日…インターンシップ説明会
 27日…ワカモノ募集締切
 20日…オリエンテーション
 21日…インターン活動開始

7月

8月

インターン活動期間

4日…ワカモノ定例会①
 11日…受入団体座談会①

1日…ワカモノ定例会②

受入団体説明会

参加者：28名

参加を希望する団体に向けてプログラムの説明を行いました。1期生のビデオレターでのコメントも紹介いたしました。



第1回ワカモノ定例会

参加者：11名

第1回定例会では、「自分の言葉で相手に伝えること」・「インターン生同士の横のつながりを作ること」を目的としました。



インターンシップ説明会

参加者：14名

参加を希望するワカモノに向けて21団体が活動PRを行い、後半には団体、学生、1期生と話せるフリー面談を設けました。



第1回受入団体座談会

参加者：14名

「支えあう仲間を知る」「コーディネーターとしての目標を立てる」を目標にワークを行いました。



オリエンテーション

参加者：23名

インターン中の活動の心構えに関する講義、インターンを通して在りたい姿について考えるワークショップを行いました。



第2回ワカモノ定例会

参加者：11名

第2回定例会では、「個人と団体の内容を知る」・「他のワカモノと仲良くなる」を目的にワークショップを行いました。



9月

10月

11月

12月 1月

インターン活動期間

5日…
中間発表会3日…ワカモノ
定例会③
17日…受入団体
座談会②7日…ワカモノ
定例会④19日…ワカモノ
定例会⑤11日…インターン
活動終了
16日…ワカモノ
定例会⑥

中間発表会

参加者：34名

「活動先の団体について」をテーマに、一人ずつ3分間で「自分の言葉」で活動先の団体を紹介する発表会を行いました。



第4回ワカモノ定例会

参加者：9名

エピソードやジェスチャーを交えながらの説明で、思い思いに活動の様子を伝えてくれました。



第3回ワカモノ定例会

参加者：14名

今回は趣向を変えてフィールドワークとしてシネコヤ「隠れ家シネマ」に、イベント準備の様子を見学してきました。



第5回ワカモノ定例会

参加者：12名

ワーク「インターンの目標達成度」と「2月の成果発表会に向けた話し合い」を行いました。



第2回受入団体座談会

参加者：11名

「ワカモノと接する中で感じる悩みや課題について、解決策やそのヒントを得る」を目的に話し合いを行いました。



第6回ワカモノ定例会

参加者：11名

最後の定例会ということもあり「今までインターンで得た経験を今後どう活かしていくか」をテーマとしました。



1月

インターン活動期間

18日…合同定例会

2月

まとめ

13日…発表会リハーサル
20日…成果発表会

3月

まとめ

5日…受入団体座談会③
20日…活動報告書提出締切

横浜プログラムとの合同定例会

参加者：20名

同じくトヨタ財団から助成を受けているアクションポート横浜のプログラムとの合同定例会。良い刺激や出会いがありました。



第3回受入団体座談会

参加者：5名

インターンのまとめとして、1年間の振り返りのワークを行いました。



成果発表会

参加者：80名

「団体について知ってもらうとともに、インターンを通して学んだこと、成長したことを伝える」をテーマとしてワカモノ20名による発表を行いました。企画・運営はワカモノ主体で行い、それぞれの得意分野を活かした運営となりました。ワカモノの発表や運営している様子から今までの様子が伝わってくる、温かい雰囲気に包まれていました。



自主企画

ワカモノ定例会後や突発企画として、ワカモノみんなでご飯を食べたり、イベントに参加するなどしました。時には1期生も交えて交流を図りました。

受入団体の紹介

2015 年度は、事務局を含め、16 の団体にワカモノを受け入れていただきました。ここでは受け入れしてくださった団体が大事にしていることや活動内容をご紹介します。担当者の皆さんの顔から充実した雰囲気が感じ取れたなら、それはきっと参加したワカモノのおかげかもしれません。

※掲載している団体情報は 2015 年度エントリー時のものです。

NPO 法人 ドリームエナジープロジェクト

知的、発達障害の子の社会参加支援事業。「ドリプロスクール」というウィークエンドスクールで、歌・ダンス・美術・写真などの講座を開催。



NPO 法人 湘南市民メディアネットワーク

不登校・ひきこもり等の青少年、学生、市民の方に向けた映像制作ワークショップや授業の開催、地域の歴史や行事、市民活動等に関する映像制作やネット配信、映像祭や映画上映イベントの開催等、映像を媒体に人と人をつなぎ、コミュニケーションを活性化、市民の生活を豊かなものにしていくことを目指しています。

認定 NPO 法人 WE21 ジャパン

WE21 ジャパンは、チャリティーショップ「WE ショップ」を拠点に資源循環型の社会づくり、世界の人びととの民際協力、世界的な貧困や環境問題を学ぶ場づくりを行う NPO 法人です。37 の NPO が連携して、神奈川県を中心に 55 店舗を展開し活動を進めています。





NPO 法人 まちづくりスポット茅ヶ崎

茅ヶ崎市南西部エリアのにぎわいとコミュニティ形成に向けて、地域資源を活かし、地域や世代をつなぐ交流の場や機会を提供中。2015 年 4 月～交流スペース「まちスポ茅ヶ崎」の運営を始め、多世代の交流、食を通じたまちづくり、魅力ある景観の維持・継承などの事業に取り組んでいます。

NPO 法人 REDS 湘南

REDS 湘南は主に下記の事業を中心に活動しています。

- ・再生可能エネルギーを活用した、地域連携・市民協同発電事業の推進支援
- ・省エネルギー化および再生可能エネルギー活用の促進に係る普及啓発活動



藤沢市民まつり実行委員会

今年で 42 回目となる藤沢市で開催されている最も大きなイベント「藤沢市民まつり」の企画・運営をする団体です。商工会議所、商店街連合会、藤沢市、NPO、市内 4 大学の学生と、様々なメンバーが主体となり活動をしています。

NPO 法人 湘南遊映坐

湘南鎌倉や東北被災地を回遊する映画祭を通して、多彩なアートに親しめる機会を提供。映画と芸術文化の土壌を耕し、人々に心の潤いをもたらすことを目的に活動しています。ミニシアターのなくなってしまった地方を「遊映」する出張映画祭を企画運営しています。



受入団体の紹介



シネコヤ

シネコヤでは「街の映画館づくり」を行っています。毎月2回の上映会開催、その他イベント等を企画しています。上質な映画とサブカルチャーが集まる、そして、それらを愛する人たちが集まる、「街の映画館」を藤沢につくりたいと考えています。

NPO 法人 ゆい

現在ゆいでは、50年前の湘南海岸にたくさん自生していたけれども、今はずいぶん少なくなってしまった海浜植物を増やす活動を行っています。5年前からは、広く市民に呼びかけて毎年たくさんの方に参加していただいています。



NPO 法人 西浜サーフライフセービングクラブ

当クラブは、湘南片瀬西浜海岸を拠点にした日本で最も伝統のあるライフセービング団体です。2003年にNPO法人を設立し、2012年にはクラブ設立50周年を迎え、長年のビーチクリーン活動等が評価され緑綬褒章を受章しました。主な事業は海水浴場でのパトロール、ビーチクリーン、競技会参加、ジュニアプログラム等育成事業です。

認定 NPO 法人 地球市民 ACT かながわ / TPAK

「与えるのではなく、立ち上がる力を子ども達に」アジアの途上地域の子ども達が一人でも多く教育を受け、幸せで明るい未来を自ら切り開けるよう、タイ、ミャンマー、インドで少数民族と農村部の子ども達と女性たちの、教育と健康と自立のための支援活動を1993年より行っています。





NPO 法人 ADRA Japan

ADRA Japan は、途上国や災害被災地において開発支援や緊急支援活動を行なう国際 NGO です。世界約 120 か国の ADRA 支部と連携し、人種・宗教・政治の区別なく、自然災害や紛争の被災者、医療を必要としている人々、教育を受けられない女性や子どもたちなどに、自立を助ける支援や緊急支援を届けています。

NPO 法人 湘南 DV サポートセンター

小中学校で実施するいじめ防止プログラムや、高校・大学で実施するデート DV 防止プログラムのアシスタントを募集します。平日の参加が無理な方は、事務局のアシスタントでも可。来年度のユースリーダー養成講座の企画・運営をしてくれる方も募集しています。



昔の遊びを伝える会

昨年度は文化庁の助成を受け、伝統文化親子教室を開催。年に数回イベント開催とお正月に昔遊びイベントを開催。子どもの遊びとしては、けん玉、こま、ベーゴマ、竹けん玉、ブンブンゴマの作製や指導もしています。

NPO 法人 NPO サポートちがさき

茅ヶ崎市民活動サポートセンターの指定管理者として、施設の管理運営と市民活動推進のための事業を企画。営利を目的としない社会貢献活動を行っている個人や団体に対して、その活動の促進や支援のため、情報提供・収集、相談・助言、交流・人材育成事業、協働・連携の橋渡し等を行っています。





健康
心身健康
生活習慣
食生活
運動
睡眠
ストレス
社会生活

ワカモノ紹介

- 松浦 賢（文教大学国際学部国際理解学科 3 年）－ NPO 法人 ドリームエナジープロジェクト
- 小駒 佑輝（藤沢総合高校総合学科 2 年）－ NPO 法人 湘南市民メディアネットワーク
- 小澤 みのり（横浜市立大学国際総合科学部国際総合科学学科 3 年）－ 認定 NPO 法人 WE21 ジャパン
- 宮下 栞（神奈川大学経営学部国際経営学科 1 年）－ NPO 法人 まちづくりスポット茅ヶ崎
- 両角 拓夢（日本大学生物資源科学部生物環境工学科 3 年）－ NPO 法人 REDS 湘南
- 佐久間 恭子（昭和音楽大学音楽学部音楽芸術運営学科 3 年）－ 藤沢市民まつり実行委員会
- 岡島 里花子（立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科 1 年）－ NPO 法人 湘南遊映坐
- 佐々木 渚紗（立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科 1 年）－ NPO 法人 湘南遊映坐
- 池田 美涼（文教大学情報学部メディア表現学科 2 年）－ シネコヤ
- 瀬戸 里英子（文教大学情報学部メディア表現学科 2 年）－ シネコヤ
- 上野 凌（慶應義塾大学環境情報学部環境情報学科 2 年）－ NPO 法人 西浜サーフライフセービングクラブ
- 佐藤 慎太郎（東京農業大学大学院農学研究科博士前期課程 2 年）－ NPO 法人 ゆい
- 石田 美穂（法政大学法学部国際政治学科 3 年）－ 認定 NPO 法人 地球市民 ACT かながわ /TPAK
- 幸田 紗季（立教大学観光学部交流文化学科 3 年）－ 認定 NPO 法人 地球市民 ACT かながわ /TPAK
- 河村 卓郎（慶應義塾大学環境情報学部環境情報学科 3 年）－ NPO 法人 湘南 DV サポートセンター
- 山田 愛美（法政大学法学部国際政治学科 3 年）－ NPO 法人 ADRA Japan
- 藪内 原（日本大学生物資源科学部植物資源学科 3 年）－ NPO 法人 NPO サポートちがさき
- 尾上 太一（予備校生）－ 昔の遊びを伝える会
- 望月 優希（文教大学国際学部国際理解学科 2 年）－ 認定 NPO 法人 藤沢市市民活動推進連絡会 他
- 簗田 萌（文教大学国際学部国際理解学科 3 年）－ 認定 NPO 法人 藤沢市市民活動推進連絡会 他

松浦 賢（文教大学 国際学部 国際理解学科 3年）

障がいを持った子どもたちの可能性の幅を広げたい

受入団体：NPO 法人 ドリームエナジープロジェクト



Q1

大学で行われた説明会に参加して知りました。インターンに参加しようと思った理由は自分ができるところをどのように生かせるのか考えたい、自分の中にある可能性をもっと広げたいという意志があったからです。

Q2

ダウン症・知的障がいを持つ子どもを相手にレッスンをを行う団体でした。活動を重ねていくにつれ、子どもたち全体をまとめることができるようになりました。この活動は、自分を変える「大きなカギ」になりました。



Q3

ダンス発表会の練習のまとめ役を任せられ、初めて指揮を取った時に緊張し、自分の思うようにいかなかった。やり方を工夫し、結果は大成功となった。その後、みんなと触れ合う機会が多くなり、あだ名で呼ばれるくらいである（笑）。

Q4

「自分がしっかりと元気を見せれば、子どもたちも応えてくれる。」インターンで得た一番大事なことです。指導には様々な工夫が必要ですが、子どもたちのペースに合わせることで子どもたちはより一層やる気をますようになりました。

Q5

私はこのインターンシップを経て、「障がいを持った子どもたちの可能性の幅を広げたい」と考えました。初めは教員の資格だけ取ろうとしか思いませんでした。が、この活動を行うことでもっと頑張ろうと思いました。

Q6

このインターンシップでは様々なものを得られます。そして自分の可能性の幅を広げる大きなきっかけとなってくれればうれしいです。

Q1：インターン前にしていたことと、インターンに参加しようと思った理由は何ですか。Q2：インターンを通じて、どんな出会い（人・モノ・機会等）がありましたか。Q3：今だから言える！活動中のエピソードを教えてください。Q4：活動期間中に得たこと・気づいたことは何ですか。Q5：インターンの活動を経てのあなたの将来像は何ですか。Q6：（活動報告書を読んでいる人に）メッセージをお願いします。



小駒 佑輝 (藤沢総合高校 総合学科 2 年) 人との繋がりが大切だと感じた

受入団体：NPO 法人 湘南市民メディアネットワーク



Q
1

部活動をしていました。参加した理由は、映像に興味があり高校が募集していた映像に関する夏季連携講座に参加したとき、講師の方に勧められたからです。

Q
2

映画の撮影に同行できて、そこで俳優さんの演技を見れた。



Q
3

寒い日に長時間撮影をしていて次の日風邪をひいたこと。

Q
4

映画の撮影に同行したとき受け入れ団体の代表の方が人を集めたり、知り合いの施設を借りてそこで撮影していたことから人との繋がりが大切だと感じた。

Q
5

大学で映像技術を学ぼうと思います。

Q
6

もともと興味があったものなので半年間が短く感じました。なので有意義な半年間にしてください。

小澤 みのり (横浜市立大学 国際総合科学部 国際総合科学科 3年)

NPO はどんな法人よりも身近な法人

受入団体：認定 NPO 法人 WE21 ジャパン



Q1 インターン前は、学園祭実行委員会の中の編集局という部署でパンフレットを作っていました。そこで得た技術を社会に応用させたいと思ったのが参加の理由です。

チラシやポスターを作成するだけかと思っていたのですが、インドの女の子をホームステイさせたり、アフガニスタンの方とお話したり、地域のボランティアの方の話を伺ったり…様々な出会いに恵まれました。

Q2



携帯ボックスのデザインを考えるのが、一番難しかったです。地域 NPO の皆様の意見をどう集約させるか、どういう理由を持ってどこを直していったらいいか。今までにない、新しい視点に立つ機会をいただきました。

Q3

デザインというのは、ある程度のルールがあるということ(レイアウト、フォント等)。人の意見を受け入れるだけでなく、その意見を客観的に見て、必要であればきちんと反映していくこと。

Q4

Q5

意見をまとめる人になりたい。どの意見とどの意見を結びつければいいのか。両者にとっての妥協点はどこなのか。いろんな意見を集約し、議論を前に進めさせる力のある人になりたい。

Q6

NPO はどんな法人よりも身近な法人です。「よくわかんないなあ～NPO って」と思ってる暇があったら、ぜひ実際に足を運んでみて。どこの NPO でも、ボランティア大募集してると思うので。社会の見方、少し変わるかもしれませんよ？

Q1：インターン前にしていたことと、インターンに参加しようと思った理由は何ですか。Q2：インターンを通じて、どんな出会い（人・モノ・機会等）がありましたか。Q3：今だから言える！活動中のエピソードを教えてください。Q4：活動期間中に得たこと・気づいたことは何ですか。Q5：インターンの活動を経てのあなたの将来像は何ですか。Q6：（活動報告書を読んでいる人に）メッセージをお願いします。

宮下 栞 (神奈川大学 経営学部 国際経営学科 1年) まちづくりって具体的にはどんなことをするのだろう？

受入団体：NPO 法人 まちづくりスポット茅ヶ崎



Q1

インターンシップ説明会の際、受け入れ団体さんのお話を聞く中で「まちづくりって具体的にはどんなことをするのだろう？」と思い、詳しくお話を聞くことで団体さんで活動したいと感じこのプログラムに参加しました。

Q2

活動では多様な活動をし、事務作業からイベントの企画・運営の仕事等今まで取り組んだことのない経験ができました。また多くの方とお話する機会もあり、様々な人やお話に触れることができました。



以前から緊張しやすい性格であったため、利用者の方に話しかけることや、イベント等で人前で話す際にはいつも緊張していました。しかし、たくさんの方とお話することで話をすることが以前より楽しくなりました。

Q3

まちづくりのお手伝いをする団体さんで活動させていただくことで人と人の繋がりの大切さを改めて考える機会になりました。

Q4

Q5

地域の人との繋がりの大切さに気付けたのでこれから身の周りにある地域の活動等にもっと関心を持つようにしたいです。また、スタッフさんのように積極的に動ける人物になりたいです。

Q6

このインターンプログラムではたくさんの人と関わり、今まで経験したことのないことに取り組むことができました。半年間の活動を忘れないようにし、これからいかしていきたいと思います。

両角 拓夢（日本大学 生物資源科学部 生物環境工学科 3年） 仕事をするにあたって責任感を持つことの重要性を学べた

受入団体：NPO 法人 REDS 湘南



Q1

大学の授業で環境に関するインターンシップ活動をする単位がもらえるものがあつたためインターンをしたと思いました。また、人見知りの自分を克服したいというのも理由の1つです。

Q2

受け入れ団体の方たちは皆優しく、自分のことを信頼して責任のある仕事をさせてもらえることができました。また、イベントでの展示で地域の人たちと交流することができました。



Q3

ビジネスマナーをほとんど知らず、名刺交換の時に渡す名刺の方向が逆になっていたなどの社会に出来ていたらできて当たり前で失敗を何度かしていました。

Q4

仕事をするにあたって、人同士のつながりの大切さを再認識できました。また、仕事に関して責任感を持つことが大切だと学ぶことができました。

Q5

仕事をするにあたって責任感を持つことの重要性を学ぶことができたので、今後、社会に出たら責任感を以て、物事に臨んでいけるようになりたいです。

Q6

インターンシップ活動はたいへんでした。しかし、本気で真剣に取り組んで活動すれば、自分の仕事が団体の役に立ったときや活動報告をしたときの達成感はとてもありました。

Q1：インターン前にしていたことと、インターンに参加しようと思った理由は何ですか。Q2：インターンを通じて、どんな出会い（人・モノ・機会等）がありましたか。Q3：今だから言える！活動中のエピソードを教えてください。Q4：活動期間中に得たこと・気づいたことは何ですか。Q5：インターンの活動を経てのあなたの将来像は何ですか。Q6：（活動報告書を読んでいる人に）メッセージをお願いします。



佐久間 恭子 (昭和音楽大学 音楽学部 音楽芸術運営学科 3年) 同年代の様々な志を持つワカモノに出会えた

受入団体：藤沢市民まつり実行委員会



Q1

大学に通いながら、飲食店でバイトをしていました。新しいことに挑戦したくて、大学の学園祭運営委員会やコンサート企画をしていましたが、もっと視野を広げるべく、思い切ってインターンを試みようと思ったのが一番の理由です。

Q2

同年代の様々な志を持つワカモノに出会うことができました。



ホームページの作成と更新を担当していたのですが、誤った情報を流してしまったことがありました。指摘をしてくださった方への返信や誤った情報を流していたことへの対応の仕方など担当者の指導のもとに対応しました。

Q3

自分がどのような人間か、少しだけ気づくことができました。欠点を克服する方法や長所を効果的に活かすためにどうすれば良いかと今まで考えなかった思考をするようになりました。

Q4

Q5

音楽祭（音楽イベント）のプロジェクトマネージャー。

Q6

学ぶことがとても多く充実した日々を過ごすことができました。何より活動している時にこれほど楽しい、面白いと思えるとは思っていませんでした。来年度以降も、多くのワカモノに参加してほしいプログラムとしておすすめします！

岡島 里花子 (立教大学 コミュニティ福祉学部 福祉学科 1年)

映画とその土地の芸術・文化を結び付ける内容に魅せられて

受入団体：NPO 法人 湘南遊映坐



Q1

昔から映画が好きで、映画館でも家でもよく見ていました。大学に入り、映画を見る機会が増えていく中で遊映坐理事長である岡さんと出会い、映画とその土地の芸術・文化を結び付ける企画内容に魅せられ参加させていただきました。

Q2

遊映坐のスタッフの方をはじめ、お寺の住職の方や介護業界に携わる方など、映画とは一見関係のないように見える方との出会いも多々あり、お話を聞かせていただく度にその方の考え方・姿勢に刺激を受けていました。



映画祭の企画進行といっても決して華やかな仕事ばかりではなく、チラシの折込など地道な作業の積み重ねもたくさんありました。その作業があったからこそ、映画祭が実現した時の達成感をより大きく感じられたのだと思います。

Q3

遊映坐での活動を通して学ぶことができたのは「縁」の力と仕事効率の大切さです。特に「縁」の力に関しては、それをきっかけに今まで多くの企画を実現してきた遊映坐での活動で目の当たりにすることができました。

Q4

Q5

上記に記したことを踏まえ、人と人との繋がりを大切にしながら様々な角度から物事を見られる臨機応変な人になりたいと思いました。これから色々な経験や出会いがあると思いますが、このような理想像を常に意識できたらと思います。

Q6

インターン活動は普段の生活ではできないことをたくさん経験することができ、新しい世界を広げられます。自分に合った活動先が絶対にあると思うので、是非積極的に参加して新しい自分に出会ってください！

Q1：インターン前にしていたことと、インターンに参加しようと思った理由は何ですか。Q2：インターンを通じて、どんな出会い（人・モノ・機会等）がありましたか。Q3：今だから言える！活動中のエピソードを教えてください。Q4：活動期間中に得たこと・気づいたことは何ですか。Q5：インターンの活動を経てのあなたの将来像は何ですか。Q6：（活動報告書を読んでいる人に）メッセージをお願いします。



佐々木 渚紗 (立教大学 コミュニティ福祉学部 福祉学科 1年) 自ら「発信できる人」になっていきたい

受入団体：NPO 法人 湘南遊映坐



Q1

大学生になり、アルバイトを始めたり、サークルのに参加したりしていました。そんな時、大学で受入団体の方から団体の活動についてのお話を伺い、興を持ったため、インターンに参加しようと思いました。

Q2

私が活動していた団体は「映画」と密接した団体でしたが、映画祭のゲストにお迎えした介護職をなさっている方など、映画に関係する方のみならず、様々な方々と出会い、世界を広げることができました。



映画祭のトークイベントで、ゲストにお迎えした辰巳芳子さんに質問をした際、緊張と辰巳さんのあまりの迫力に頭が真っ白になってしまい、半泣きしながらもなんとか質問を終えました。

Q3

映画祭の会場レイアウトなど、ただアイデアを出すのではなく、限られた準備時間や場所のことを考慮しなければならない場面に出会い、試行錯誤を繰り返して対処することができました。

Q4

Q5

映画祭に向けてアイデアを求められる場面が多くあり、自分から何かを発信することの難しさを感じました。このインターンを通して自ら「発信できる人」になっていきたいです。

Q6

このインターンを通して様々なことに関わる多くのことを学びました。それと同時に、自分を見直すきっかけにもなりました。インターン、おすすめです！

池田 美涼（文教大学 情報学部 メディア表現学科 2年）

シネコヤの皆さんは私の目標

受入団体：シネコヤ



Q1

私は、このプログラムに参加する以前は、毎日をなんとなく過ごすだけでした。しかし、このままではいけないという気持ちはずっとありました。そのとき、偶然このプログラムを知り、「これだ!」と思い、参加しました。

Q2

代表の竹中翔子さんをはじめとするシネコヤの皆さんとの出会いは、私にとって、とても大きなものでした。皆さんとても格好良くて、私の憧れであり、目標です。



ボランティアノートというマニュアルの作成が一番大変でした。試験期間と重なり、両立させることが大変でした。今だから言えますが、何度も投げ出そうとしていました。最終的に何とか完成させることができ、良かったです。

Q3

私が出たものは、自信と長所を知る機会です。自分に何ができて、何ができないのか、私には分かりませんでした。このインターンによって、知る機会を得て、さらに長所に気づくこともできました。

Q4

Q5

「インターンを通しての出会い」でも述べましたが、シネコヤの皆さんは私の目標です。少しでも皆さんに近づけるよう、自分に足りないもの、やるべきことを一つずつクリアしていこうと思います。

Q6

このプログラムは、インターンに興味のある方におすすめです。貴重な経験になると思います。ぜひ、楽しみながら成長してください。最後に、シネコヤの皆さん、そして事務局の永山さん、本当にありがとうございました。

Q1：インターン前にしていたことと、インターンに参加しようと思った理由は何ですか。Q2：インターンを通じて、どんな出会い（人・モノ・機会等）がありましたか。Q3：今だから言える！活動中のエピソードを教えてください。Q4：活動期間中に得たこと・気づいたことは何ですか。Q5：インターンの活動を経てのあなたの将来像は何ですか。Q6：（活動報告書を読んでいる人に）メッセージをお願いします。



瀬戸 里英子 (文教大学 情報学部 メディア表現学科 2年) 自分の好きな分野で、地域に根ざした活動をしたい

受入団体：シネコヤ



Q1

大学で、アニメーションや広告制作などを学んでいるので、映像関係の仕事を体験し、将来の目標にしようと思ったから。

Q2

素敵な人、素敵な手料理、素敵な建物に出会えました。いまだかつてない3つの素敵でした。特に、独特な世界観を持った方々は魅力的で、私にとって目標の大人像であるとともに、活動の力の源でもありました。



一時でも、シネコヤファミリーになれて幸せでした。スタッフルームで日夜繰り広げられる話、美味しい手料理にワクワクドキドキの毎日でした。落ち着きすぎて、我が家というたた寝してしまった事はいい思い出です。

Q3

合わないと思っていた仕事が任されても、意外とこなせ、気づくと楽しんでる私がいきました。やろうとしないだけで、何でもできるのだと気づきました。戸惑わず、まずは挑戦する！という行動力が身につきました。

Q4

Q5

半年間インターン活動をするうち、自分の好きな分野で、地域に根ざした活動をしたいと思いました。

Q6

参加したての頃は不安でいっぱいでした。活動の一日一日を過ごすのがやっと。それでも、半年後の成長した自分に会いたい一心で頑張り抜くことができました。今では思い切って参加して良かったと胸を張って言えます。

上野 凌 (應義塾大学 環境情報学部 2 年)

NPO 運営の大変さ＝やりがい

受入団体：NPO 法人 西浜サーフライフセービングクラブ



Q1

ライフセービング活動をしていた。
NPO の運営と、その課題について勉強
したいと思ったのが参加の理由です。

Q2

まず、運営に携わり、理事の方々とより
知りることができました。また大会運営
などを通して、多くの企業の方ともお会
いする機会を得ることができました。



事務局の方が活動視察に来た時に遅刻
してしまったのは本当に申し訳なかった
です。

Q3

NPO 運営の大変さ＝やりがい。とい
うこと。多くの方がそれぞれ仕事を持ち
ながら運営されていましたが、皆やりが
いある活動にのめり込んでいました。人
のための活動だからこそ幸福感が得られ
るし、成長できるのだと思いました。

Q4

Q5

より良い社会を作るためにはどうした
ら良いのか、そうした課題と解決策を常
に考え、実践していく人間になりたいと
思いました。

Q6

救助活動、環境保全活動、競技活動、
教育活動を通して、水辺の事故ゼロの社
会を作るため、ライフセービング活動を
している西浜 SLSC を今後も宜しくお願
いします！

Q1：インターン前にしていたことと、インターンに参加しようと思った理由は何ですか。Q2：インターンを通じて、どんな出会い（人・モノ・機会等）がありましたか。Q3：今だから言える！活動中のエピソードを教えてください。Q4：活動期間中に得たこと・気づいたことは何ですか。Q5：インターンの活動を経てのあなたの将来像は何ですか。Q6：（活動報告書を読んでいる人に）メッセージをお願いします。



佐藤 慎太郎（東京農業大学大学院 農学研究科 博士前期課程2年） 社会に出る上で必要なこと大切なことを学べた

受入団体：NPO 法人 ゆい



Q1

以前から受入団体と交流はありましたが、今回本格的にゆいの一員として運営に参加しないかと、ご紹介いただいたことがきっかけ。ボランティアに参加するだけでは知ることができない活動の内側を体験できる点に興味をもちました。

Q2

様々なジャンルの団体や活動している人々に出会えたことだと思います。



植物の植える場所間違えそうになっちゃったこと。あと成果発表会とても緊張した。。

Q3

様々な年代の人々とのコミュニケーションをとることの重要性や社会に出る上で必要なこと大切なことを学ぶことができたことやメンバーの方々や他の団体との交流を通じて知見や視野を広げることができたことが大きな収穫でした。

Q4

Q5

行動力やリーダーシップを発揮できるような人間になれたらと思います。

Q6

ボランティア団体や市民活動がどう運営されるのか、イベントがどう企画され実行されるのか等、アルバイトやボランティアでは中々できない、とても貴重な経験ができるインターンです。期間は長いですが、ぜひ参加してみてください！

石田 美穂（法政大学 法学部 国際政治学科 3年）

自分なりに学び、ボランティアにも携われる大人になりたい

受入団体：認定 NPO 法人 地球市民 ACT かながわ /TPAK



Q1

大学で国際政治学を専攻し国際協力について学んでいたもので、それを機会に実際に国際協力について学び自分でも実践したいと思いインターンに参加しました。

Q2

インターンに参加したことでただ大学に通うだけでは決して出会うことのない人たち、例えばインドなど現地で直接活動をしている方などと会い、お話を聞くことでこれまでにない視野を得ることが出来たと思います。



人見知りの私にとってはバザーなどで直接お客様にお声がけすることはとても苦手で中々克服できず、馴れているスタッフの方の陰に隠れたことがしばしばありました。でも今では克服できたと思います！

Q3

活動に参加しているスタッフの方やボランティアさんの相手への思いやりや国際協力についての考え方、仕事に対する姿勢を間近に目にしたことで、他人に対してもっと誠実になろうと思うようになりました。

Q4

Q5

社会人になっても国際協力について自分なりに学び、ボランティア活動にも携われる大人に。日々の生活に追われ自分のことや目先のことに囚われず、広い視点から相手のことを考え思いやり、行動できるようになりたいです。

Q6

普通の大学生活では経験できない貴重な体験をたくさんさせて頂きました。そのおかげで新たに気付いたこと、学べたことがいっぱいあります。何かボランティア活動してみたいと思っている方はぜひ参加することをお勧めします！

Q1：インターン前にしていたことと、インターンに参加しようと思った理由は何ですか。Q2：インターンを通じて、どんな出会い（人・モノ・機会等）がありましたか。Q3：今だから言える！活動中のエピソードを教えてください。Q4：活動期間中に得たこと・気づいたことは何ですか。Q5：インターンの活動を経てのあなたの将来像は何ですか。Q6：（活動報告書を読んでいる人に）メッセージをお願いします。



幸田 紗季 (立教大学 観光学部 交流文化学科 3年)

世界中の人たちが平和に生活できるお手伝いがしたい

受入団体：認定 NPO 法人 地球市民 ACT かながわ /TPAK



Q1

インターン前は淡々と毎日を過ごしていました。幼い頃から国際協力に関心があったため、大学生の時間があるうちに何かしたいと思い参加しました。

Q2

外資系の商社や大手自動車メーカーで働いている人に出会ってお話をしたことで自分にはなかった考えや知識を身に付けることが出来ました。また、イベント等を通じ、国際協力に関心のある同世代の人とお話し、情報共有が出来ました。



午前中のワークをしている途中にお腹が空いてしまうことが多々あり、お腹が鳴らないようにするのが大変でした。なので午後のワークより、午前中のワークは気持ち的に集中出来ていなかった気がします…。

Q3

相手の立場に立って物事を考えて行動することの大切さに気づきました。自分が良いと思って行った行動が必ずしも、相手にとっても良いとは限りません。相手がどう思うかを考慮することが大切であると分かりました。

Q4

Q5

何年先に実現できるかは分かりませんが、将来は世界中の人たちが平和に安心して生活できる環境を作るためのお手伝いができたら良いなと考えています。

Q6

もし、NPO のインターンに関心を持っていただけたらぜひ参加してほしいと思います。どの分野の NPO のインターンに参加したとしても、自分の成長につながる体験が出来るのではないかと思います。

河村 卓郎 (慶應義塾大学 環境情報学部 環境情報学科 3年)

関心のあることに、覚悟と高い行動力を持って臨みたい

受入団体：NPO 法人 湘南 DV サポートセンター



Q1

塾講師のアルバイトをしていました。教育に関心があり、特に心理学と重なる部分には強い興味を持っていました。そういった分野において大学やアルバイトでは経験できないことに挑戦したいと思ったのがきっかけです。

Q2

開催したイベントで中高生や大学生と出会うことができました。また、学校や学童の先生とお会いする機会もあり、全体を通して様々な立場の方との接点があったと感じています。



あるイベントで司会役を担当した際に多くの方々からお褒めの言葉を頂きましたが、その当時実は司会の勝手は全く知らず、前日の先輩の姿を見て、そのあと必死に練った原稿を使っていました。正に直前での勉強でした。

Q3

教育と心理学の知識を得ました。また、人や立場によって考え方が様々あり、お互いが分かり合うということの難しさを実感しました。

Q4

Q5

相手のことを思いやりながら自分の考えを発信できる人になりたいです。また、関心のあることに対して、覚悟と高い行動力を持って臨んでいける人になりたいです。

Q6

普段の生活だけでは学び得なかったことをインターンを通して多く学ぶことができました。新しいことに挑戦していく気持ちは自分を成長させてくれると思います。このインターンは誰にもその大切なキッカケになります！

Q1：インターン前にしていたことと、インターンに参加しようと思った理由は何ですか。Q2：インターンを通じて、どんな出会い（人・モノ・機会等）がありましたか。Q3：今だから言える！活動中のエピソードを教えてください。Q4：活動期間中に得たこと・気づいたことは何ですか。Q5：インターンの活動を経てのあなたの将来像は何ですか。Q6：（活動報告書を読んでいる人に）メッセージをお願いします。



山田 愛美 (法政大学 法学部 国際政治学科 3年)

自分の言葉で発信していけるような大人になりたい

受入団体：NPO 法人 ADRA Japan



Q1

国際協力団体で活動を行なったのは、今回が初めてです。時間のある大学生だからこそ、様々なことに挑戦したいと考えていました。そこで、以前から興味のあった国際協力団体での活動を決意しました。

Q2

受入団体の方やワカモノとの出会いだけではなく、時には他団体の方とセミナーに参加する機会もありました。本プログラムを通して、年齢を問わず様々な方達との交流を深めることが出来たと考えています。



Q3

料金受取人払郵便の承認を得るために、渋谷の街をロードバイク風の自転車で走り回ったことが印象的です。運悪くガウチョパンツを履いてきてしまい、とてもこぐのに苦労しました。今となってはいい思い出です！

Q4

多角的な視点で物事を捉えられるようになりました。活動中は文章を書く機会が多かったのですが、書きたいことだけを書くのではなく、読んでくださる方が何を知りたいか考えながら書くことを心掛けていました。

Q5

魅力のある大人になることです。ぶれない芯を持ち、なおかつ様々な経験を通して得たことを自分の言葉で発信していけるような大人になりたいと考えています。そのために、まずは目先の就職活動！頑張ります！

Q6

「国際協力に興味はあるけど、何をすればいいんだろう？」という方。そんな方は「ADRA Japan 古本寄付」と検索してみてください。ちょっとした行動ひとつで、守ることができる命があるんです。

藪内 原（日本大学 生物資源学部 植物資源学科 3年）

暖かい人、僕もそういう大人になりたい

受入団体：NPO 法人 NPO サポートちがさき



Q1

インターンの前は大学で先輩の研究を手伝ったり、研修でタイに行ったりしていました。インターンに参加しようと思った理由は、自分が不足している社会経験をたくさん積みそうだったからです。

Q2

インターン活動を通して、受け入れ先の人、活動でかかわった人、事務局の方々、他のインターン生など、さまざまな人と関わりました。また事務機器を扱う機会や募金をする機会など様々な機会がありました。



コピー機の鍵をうっかりポケットに入れたまま帰ってしまい、玄関の前で気が付いてまたインターン先に戻るという事を2回もやってしまいました。それからポケットの中身を確認してから帰るようにしました。

Q3

電話に苦手意識を持っていましたがインターンで電話を掛けたり取ったりしているうちに以前より苦手ではなくなりました。また事務作業では丁寧さが求められているということを学びました。

Q4

Q5

インターンで関わった大人の人は暖かい人ばかりでした。僕もそういう大人になりたいと思います。そのために目の前の色々なことを頑張りたいです。とりあえず今度入る研究室の後輩と仲良くなるのが目標です。

Q6

インターン活動では結構失敗することもありましたが、大体なんとかなりました。失敗しないように気を付けるのも大事ですが、失敗を気にしすぎないようにすることも大切です。読んでくださりありがとうございます。

Q1：インターン前にしていたことと、インターンに参加しようと思った理由は何ですか。Q2：インターンを通じて、どんな出会い（人・モノ・機会等）がありましたか。Q3：今だから言える！活動中のエピソードを教えてください。Q4：活動期間中に得たこと・気づいたことは何ですか。Q5：インターンの活動を経てのあなたの将来像は何ですか。Q6：（活動報告書を読んでいる人に）メッセージをお願いします。



尾上 太一（予備校生） 普通と違う、面白い事がしたい

受入団体：昔の遊びを伝える会



Q1

面白い事はないかなと思ったのがきっかけ。僕は浪人生だったので受験勉強をしなければいけないんですけど、一年間ただ塾に行って勉強して帰る当たり前の事が僕には耐えられず、普通と違う、面白い事がしたいと思って参加しました。

Q2

関わった人と一緒になって笑ってる場面にたくさん出会いました。昔の遊びを披露したり、教えたりしてその面白さが伝わると自然と笑顔が出て、僕も笑顔になり、気づいたらみんな笑ってる。そういう笑顔になれる出会いがありました。



Q3

活動拠点の蔵まえギャラリーに呼ばれると大抵重い荷物を移動する作業を頼まれて、それがかなりきつくて正直嫌だったです（笑）でも作業の最後に佐野さんがお昼ご飯を振舞ってくれて、それが美味しかったので頑張れました。

Q4

自分で言うのもなんですが、僕はけん玉が上手いです。でも意味の無い才能だと思ってました。「すごい！けん玉やってみたい！」とたくさんの人に言われ、人の興味をかきたてる意味あるものだと気づけたことが、僕の得たものです。

Q5

今まで特に興味のなかったNPOやここでのボランティア活動に興味が出てきて、機会があればこれからも関わっていきなと考えるようになりました。

Q6

特に志も目的も無く、ただのちょっとした好奇心で参加しました。ですが、ここでの経験は僕にとってとても価値のものになりました。だからもしこのインターンにちょっとした好奇心がある人は参加してみると面白いと思います。

望月 優希 (文教大学 国際学部 国際理解学科 2年)

やりたいことの延長線上にあるものを「仕事」にしたい

受入団体：認定 NPO 法人 藤沢市市民活動推進連絡会 他



Q1

インターンをすることで、学校では絶対に経験することができない社会のことが学べたり、新しい環境で新しい仕事を始めることで、自分の中にはない経験や感情、考えなどが生まれるのではないかと思ったから。

Q2

まずは団体や事務局・市民活動推進センターの方々、そして一緒に活動していたメンバー。



途中から仕事内容が変わり、また新しい環境で新しい仕事をしたので、出会えた人の数や仕事など、インターンの幅が二重に膨らんだこと。

Q3

様々な人と接して、人の輪を広げていくことが少し苦手だったけど、それがいかに自分にとって大切なことがわかった。そしてこれはこれからの課題です。

Q4

Q5

仕事に対する考え方が変わった。「仕事」を「働く（労働）」にせず、自分のやりたいことや夢、成長などの延長線上にあるものを自分の「仕事」としたい。「仕事」が楽しいと思え、誇りを持って、夢を追いかけるものでありたいと思う。

Q6

経験は努力と同じくらい価値のあることで、その経験が人を豊かにすると思います。大変なこともありましたが、素敵な経験をインターンを通してできました。

Q1：インターン前にしていたことと、インターンに参加しようと思った理由は何ですか。Q2：インターンを通じて、どんな出会い（人・モノ・機会等）がありましたか。Q3：今だから言える！活動中のエピソードを教えてください。Q4：活動期間中に得たこと・気づいたことは何ですか。Q5：インターンの活動を経てのあなたの将来像は何ですか。Q6：（活動報告書を読んでいる人に）メッセージをお願いします。

簗田 萌 (文教大学 国際学部 国際理解学科 3 年)

意思表示をすることで、相手のためにも自分のためにもなる

受入団体：認定 NPO 法人 藤沢市市民活動推進連絡会 他



Q
1

大学 1 年時から、NGO 団体 habitat for humanity 文教支部の活動に重きを置いていました。その中で、学生だけでは無い活動に足を踏み入れたいと感じ、NPO インターンに参加しました。(就活目前という理由も)

Q
2

多くの大人の価値観に出会えました！学生団体では味わえない人の面白さを感じたり、ビジネスマナーを自分なりに身につけられたりしました。



Q
3

前半は色々ありました、悔しくて涙が出る時もありました、(笑)しかし、そんな出会いがあったからこそ私は成長できたと言えます。

Q
4

自分の行う仕事や言動、考えにしっかり理由をつけることです。なぜこの色なんだ？なぜこれをしたのか？しっかりと言葉や文字で意思表示をすることで、相手のためにもなるし自分のためにもなることを知りました。

Q
5

抽象的な表現になりますが、伝えるべきことを伝えられる人間になりたいです。

Q
6

インターンは大半の学生が経験するとは思いますが、せっかくなら友達とはちょっと違ったインターンをしてみませんか！？損はしませんよ。

受入担当者メッセージ

TO: 松浦 賢さん

FROM:NPO 法人 ドリームエナジープロジェクト

障がいのある子たちは、ちょっとでもばかにしていると、心を開きませんが、まっすぐに接する賢くんにはすぐに打ち解けました。どのタイミングでどのくらい手助けすればいいのかは、本当に難しいことですが、大分状況に応じて考えられるようになりましたね。自分なりの工夫、謙虚な態度に好感がもてました。これからも、前向きに何にでも取り組み、がんばって。応援しています！

TO: 小澤 みのりさん

FROM: 認定 NPO 法人 WE21 ジャパン

団体から小澤さんへ何を与えられたのかなと心配な部分もありましたが、発表会で自分の成果物や課題設定、そこを自分の工夫で乗り越えたか堂々と語る姿を見て、小澤さんが自ら多くを学び取ってくださったことを知り安心しました。時間があるときは、古巣の当団体に元気な顔を見せてくれるととても嬉しいです。長いはずがあっという間でした。お疲れ様！そしてありがとう！

TO: 両角 拓夢さん

FROM:NPO 法人 REDS 湘南

幅広い業務や活動を支えて頂き、ありがとうございます。総務・経理的な業務から、企画、提案営業の同行、イベント出展を通じた啓発活動など、様々な経験を通じて得られるものがあつたと思います。業務や活動を通じて得た知識や経験などは、今後社会に出ていく上で必ず役立つことばかりです。得られたものを活かし、地域社会で活躍して頂ければと思います。頑張ってください！

TO: 岡島 里花子さん

FROM:NPO 法人 湘南遊映坐

新企画「映画チラシ大賞」の企画をお任せしましたが、作品選考や映画祭の展示会場のレイアウト、観客の皆さんへ解説など、すべてに新鮮な感性を生かして取り組んでくれました。新企画を実現させてくれたことに感謝します。岡島さんは、特にデザイン・レイアウト・広報関係の才能があるように感じました。今後、この方面の特技を生かせる仕事につけると良いかとも思いました。

TO: 池田 美涼さん

FROM: シネコヤ

みずずさんは、素早い行動で要領がよく、なんでも臨機応変に対応できる能力を持っています。自分の能力に自信を持って、好きなことにチャレンジし続けてください ^^

TO: 小駒 佑輝さん

FROM:NPO 法人 湘南市民メディアネットワーク

1年間本当におつかれさまでした。いきなり長時間の撮影やワークショップに付き合わせてしまいましたが、しっかりやりとげてくれました。活動中、様々な人・地域に直に関わることができたと思うので、そこで得たこと、感じたことをもう一度ふりかえってもらって、小駒くんの今後の人生の糧にもらえれば幸いです。

TO: 宮下 栞さん

FROM:NPO 法人 まちづくりスポット茅ヶ崎

地域で暮らす様々な世代の人と「話す」ことを大切に活動し、また自身の体験を通じて感じたことを文章にまとめて発信する役割も担い「伝える」ことに自信も深めましたね。幼馴染の大学生と企画した絵本の読み聞かせイベントでは、リーダーシップを発揮するなど日々成長する姿を頼もしく感じていました。今後、宮下さんが創っていく未来がとても楽しみです。応援しています。

TO: 佐久間 恭子さん

FROM: 藤沢市民まつり実行委員会

プログラム終了、お疲れ様でした！毎年手の回っていない広報や報告書の作成に関して、企画から実施までのスタッフたちを巻き込みながら、こちらの想定以上の成果をあげてくれて、感謝しています。また、成果発表会では司会をつとめるなど、イベントに対して、様々なかわり方をしても力を発揮できることを、しっかりと証明してくれ、誇らしいワカモノになってくれました。

TO: 佐々木 渚紗さん

FROM:NPO 法人 湘南遊映坐

新企画「映画チラシ大賞」の企画を、岡島さんとの二人三脚で、すべてに新鮮な感性を生かして取り組んでくれました。あらためて新企画を実現させてくれたことに感謝します。佐々木さんは、裏方的な作業にも数多く積極的に参加してくれました。また、作品選考の感性にも鋭いものがありました。今後、その粘り強い行動力を生かせる仕事につけると良いと思います。

TO: 瀬戸 里英子さん

FROM: シネコヤ

りえこさんは、身のこなしがとても落ち着いていて、お客さまとの接し方が丁寧で、相手にとても良い印象を与える能力を持っています。表現力も豊かで、文章力には驚かされました。その魅力を全面に出してってください！！

TO: 上野 凌さん

FROM: NPO 法人 西浜サーフライフセービングクラブ

各種事業、会議に積極的に参加して頂き、ありがとうございます。引き続き活動して行ってもらい、企画中心者として関わっている6月の大会を是非成功に導いてください。様々な面で期待しています。是非前例に囚われず、自分のアイデアをドンドン出して頑張ってください。

TO: 石田 美穂さん

FROM: 認定 NPO 法人地球市民 ACT かながわ /TPAK

TPAK を選んでいただきありがとうございました。石田さんの、物事に対して真摯に取り組む態度には、TPAK 一同もとても刺激を受けました。これからも TPAK での経験を通じて学んだ小さなことが国際協力に繋がっていることや、NGO の活動はたくさんの人が支えていることなど、心にとめて社会に羽ばたいてください。またいつでも TPAK に遊びに来てくださいね！

TO: 河村 卓郎さん

FROM: NPO 法人 湘南 DV サポートセンター

平成 27 年度のユースリーダー養成講座の企画から実施まで、メインになって活動を担ってくれてありがとう！ スクールバディの中学生たちが年に1度、様々な学校から集まって活動発表をする「いじめ防止スクールバディ・サミット」でも、リーダーシップを発揮してくれたことを嬉しく思っています。平成 28 年度もよろしくお願いいたします！

TO: 薮内 原さん

FROM: NPO 法人 NPO サポートちがさき

3 か月半ほどの短い期間でしたが、様々な仕事体験を通して、苦手なこと、未経験なことにも積極的に挑戦し、自分の新たな力を発見できたのではないかと思います。スキルは経験と努力で身につきます。思い切ってチャレンジした勇気や、その時感じた素直な気持ちを忘れずに、これからも自分らしく自信をもって、就活はじめ、いろいろなことに挑戦してほしいと思います。

TO: 望月 優希さん

FROM: 認定 NPO 法人藤沢市市民活動推進連絡会

インターン中に、上勝町を訪ね、そこで得た新鮮な体験や出会った人々。また仕事のマナーなど様々なことを吸収し、その成果をスタートアップガイドという形で残してくれました。2016 年度以降のワカモノの助けになるはず。望月さんの指示を把握し的確にアウトプットまで繋げることができる力。今後もこの力を生かし、様々なことに取り組んでもらえたら！と思います。

TO: 佐藤 慎太郎さん

FROM: NPO 法人 ゆい

佐藤さんは、年配者が多いにも関わらず積極的に関わって下さり、すっかりゆいの一員でした。また、ハマヒルガオについてのスライドを使った解説にはメンバー一同よい刺激を受けました。HP の更新は、わからないことがある中でコツコツ取り組んでいただき、どんなに助かったことか！4月から素晴らしい社会人としてやっていけることを信じてやみません。

TO: 幸田 紗季さん

FROM: 認定 NPO 法人地球市民 ACT かながわ /TPAK

幸田さん、長い間 TPAK でのインターンありがとうございました！フェアトレード品管理や、イベント出展、横浜国際フォーラムでの発表や後輩インターン指導、広報など、事務局内外で様々な役割を担ってくれましたね。これから社会に出て、TPAK で学んだことや経験を心に留め、ご活躍されるようお祈りしております。またいつでも TPAK に遊びに来てくださいね！

TO: 山田 愛美さん

FROM: NPO 法人 ADRA Japan

山田さんは、サークルなどで広報を担当したことがあり、そのスキルをあげることを目標に ADRA Japan で働いてくれました。企画やデザインなど実務経験をコツコツと繰り返すことで、仕事の面白さに気づいてくれるようになりました。将来も広報やイベント運営に携わってみたいということで、この経験がご自身のキャリアを考える上でも役に立ったとすれば嬉しいです。

TO: 尾上 太一さん

FROM: 昔の遊びを伝える会

大学受験生という立場でもいろいろなイベントに参加して下さり、大いに助かりました。イベント以外にも事務所の片づけとかなんでもやって下さり、ありがたかったです。

TO: 簗田 萌さん

FROM: 認定 NPO 法人藤沢市市民活動推進連絡会

会議や打ち合わせでの活発な意見や、頭の回転が早く、こちらの考えをさっと理解できる。その反面、いわゆるデスクワークが苦手というギャップがあった簗田さん。成果発表会でのチラシ作りなどを通して、乗り越えられたのではないのでしょうか。持ち前の明るさとしっかりとした知識・スキルをもとにこれからも何度か話してくれた夢の実現に向け、頑張ってくださいね！

インターンの活動訪問

プログラム期間中に、実際にワカモノが活動している様子や、団体の様子など「活動訪問」という形で、事務局メンバーが活動現場取材しました。

ワカモノたちの定例会などでは見られない表情や真剣に取り組む様に驚かされ、担当者の方からは受け入れに関して心がけているところなどをお聞かせいただき、事務局に取っても学びの多い訪問となりました。



もっと映像の世界と関わりたいと思った！
(小駒さん)

同世代に活動を広めたい、魅力を伝えたい！
(佐藤さん)



a. 河村拓郎 (NPO 法人湘南 DV サポートセンター) b. 池田美涼・瀬戸里英子 (シネコヤ) c. 尾上太一 (昔の遊びを伝える会) d. 小駒佑輝 (NPO 法人湘南市民メディアネットワーク) e. 佐久間恭子 (藤沢市民まつり実行委員会) f. 佐藤慎太郎 (NPO 法人ゆい) g. 山田愛美 (NPO 法人 ADRA Japan) h. 簗田萌 (認定 NPO 法人藤沢市市民活動推進連絡会 他)

NPO が動きやすい環境
を作りたい！
(上野さん)

社会の中で生きていく自
信がついた。(藪内さん)



i



j



k



l

自分から人にはなしかけ
られるようになった。
(宮下さん)

世界が広がっているのを
実感する (佐々木さん)



m



n



o



p

団体メンバーからも信頼
を得ることが出来た。
(小澤さん)

自分の気持ちを伝えるこ
との大切さを知った。
(幸田さん)



q

i. 上野凌 (NPO 法人西浜サーフライフセービングクラブ) j. 松浦賢 (NPO 法人ドリームエナジープロジェクト) k. 藪内原 (NPO 法人 NPO サポートちがさき) l. 宮下葉 (NPO 法人まちづくりスポット茅ヶ崎) m. 途中辞退 (NPO 法人湘南市民メディアネットワーク) n. 両角拓夢 (NPO 法人 REDS 湘南) o. 岡島里花子・佐々木渚紗 (NPO 法人湘南遊映坐) p. 幸田紗季 (認定 NPO 法人地球市民 ACT かながわ／TPAK) q. 小澤みのり (認定 NPO 法人 WE21 ジャパン)

成果発表会までの道のり

ワカモノ主体で成果発表会を企画・運営！

成果発表会はワカモノが主体となり、企画から運営まで行いました。秋ごろから企画を練り出し、10の班に分かれて分担しながら準備を進めました。各班のメンバーや活動内容については下記をご覧ください。



運営体制



1. 総監督（尾上 太一）

リーダーとして成果発表会をまとめました。



2. 司会（佐久間 恭子・薮内 原）

司会台本の作成と、当日の司会進行をしました。



3. タイムキーパー（両角 卓夢・瀬戸 里英子）

当日のタイムキープと時間管理をしました。



4. 広報（簗田 萌・山田 愛美）

SNS やチラシなど、情報発信をしました。



5. 備品会計（河村 卓郎・宮下 栞）

必要な備品と会計の管理をしました。

6. 装飾（岡島 里花子・佐々木 渚紗・上野 凌）

レイアウトや装飾など場づくりをしました。

7. 小冊子（小澤 みのり・幸田 紗季）

ワカモノ紹介の小冊子を作成しました。

8. パワーポイント（佐藤 慎太郎・池田 美涼）

発表資料のまとめと当日の管理をしました。

9. 受付（石田 美穂・松浦 賢）

会場の「顔」として来場者を迎えました。

10. 記録（小駒 佑輝）

当日の様子を写真とビデオで記録しました。



成果発表会当日

成果発表会開催概要

日時：2016年2月20日(土)

14時～17時

会場：藤沢商工会館ミナパーク6階
多目的ホール1

内容：ワカモノ20名による発表

発表テーマ：「団体について知ってもらうとともに、インターンを通して成長したことを伝える」



成果発表会当日の様子

ワカモノメンバーで、企画から運営までを担った成果発表会がいよいよ当日を迎えました。進行していくごとに、各係が準備してきたものが、次々と成果をあげていきました。まさに半年間のインターンを凝縮したような、そんなあっという間の熱気のこもった3時間になりました。



交流会

発表会が終了した後は、来賓・参加者の方々と交えての交流会！会場である藤沢の美味しいケータリング「味感」さんの料理を楽しみながら、様々な交流が生まれていました。



アンケート集計結果

本プログラムは「将来地域で行う公益的市民活動を担う人材が育成されること」、「地域の NPO 等における組織基盤の強化」を目的としていますが、さて、本インターンを通じてワカモノや受入団体は育成や強化されたのでしょうか？参加されたワカモノ 20 名と担当者 15 名の皆さん全員を対象（※）に、どんな成長や変化があったか、アンケートを実施しました。

（※）回収率は 100% です。全体数は、ワカモノ向けアンケートでは n=20、受入担当者向けでは n=15 となります。



ワカモノ・受入団体向け

活動を終え、以下それぞれ団体のことについてあなたはどれくらい理解しましたか？

理解した まあ理解した どちらともいえない あまり理解していない 理解していない % を表示



n=20

活動内容



n=18



ワカモノのコメント

身を持って体験できたことが、体験できなかったことより多かった。また、空き時間に団体の方が団体についてお話してくれたため。

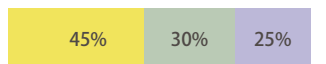


n=20

取り組む課題



n=18



ワカモノのコメント

自分の担当のこと重視で団体のことまで気が回らなかったため。



n=20

目指す社会



n=18



ワカモノのコメント

大体は理解できたと思いますが、真髓まで理解できたかと言われると自信が無いからです。

所感

ワカモノも受入担当者も成長するプログラムであったという結果が見られ、大変嬉しく思います。活動訪問や成果発表会で自信たっぷりのワカモノの皆さんの様子を見て、成長の様子を雰囲気として感じ取ることができており、数値的にも裏付けができました。また、受入団体側は団体メンバー皆さんで接することが大切！とのことが明らかとなりました。今後の本プログラムでの受入担当者の集まりで共有していきたいと思っています。



受入団体向け

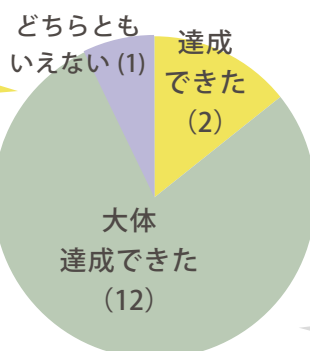
受入当初にたてた「受入担当者としての目標」は、どの程度達成できましたか。

n=15

括弧内の数は度数

達成できたポイント

達成することにより、受入団体とインターン生双方の成長につながる目標を設定したことで、担当者の意欲が高まりました。また受入団体内の他スタッフとも目標を共有した他、座談会に毎回出席して達成状況を報告・確認できたことも大きかったです。



大体達成できたポイント

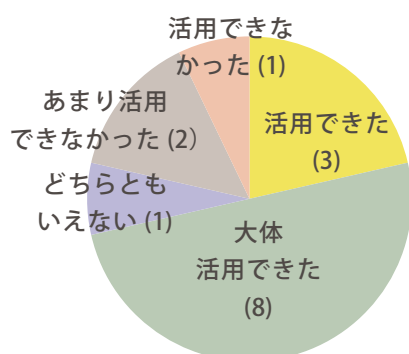
当初考えていた、ワカモノに達成してほしい目標について、概ね達成ができた。達成できた要因は、ワカモノの意向と向上させたいスキル、こちらが任せたい仕事の内容がマッチしていた。達成できなかった要因は、担当者が多忙という理由で、後半ワカモノとの時間調整ができず、報告書を仕上げきれなかった点。



受入当初にたてた「受入計画」は、活用できましたか。

n=15

括弧内の数は度数



活用できたコメント

当初立てたスケジュールに沿って、仕事の依頼ができた。学校の都合のため、12月前半にインターンが終わったことは残念だが、おおむね当初予定していた仕事を依頼し、完了することができた。

活用できなかったコメント

ワカモノ2人の授業や就職活動の日程の都合上、当初の受入計画からは多少変更になりました。しかしながら、目標を達成できるよう、他イベントへの変更などで補完しました。



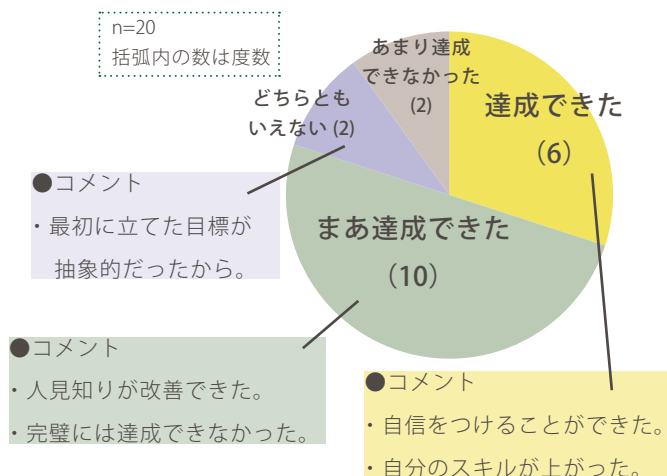
受入を通じて、団体の組織内にどんな変化がありましたか。

- ・理事会などにも参加してもらい、新たな観点から意見を述べてもらった。それにより議論が活性化した。
- ・指示の方法が悪いと希望通りのものが仕上がらない→仕事の手順、伝え方の見直しワカモノが来てくれることで職場に活気が生まれ、楽しく仕事が出来た。
- ・なぜこの仕事をするのか、説明しながら初心に立ち返ることができた。
- ・インターンの学生がリーダー的な存在になって活動を引っ張って行ってくれたため、まとまりができた。
- ・自分たちの仕事の意味ややり方を見直すきっかけになった。
- ・世代の異なるインターンが加わることで、新たな刺激になり、組織の活動や雰囲気がさらに活発になった。



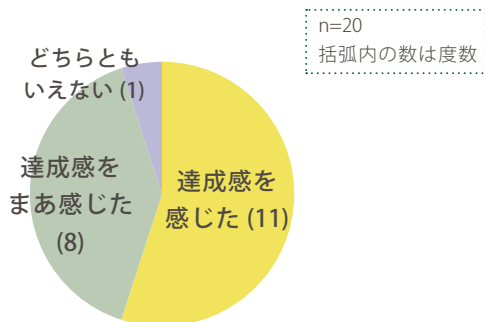
ワカモノ向け

当初立てたインターン活動の目標は、どの程度達成できましたか。



ワカモノ向け

活動から、どのくらい達成感を感じましたか。



活動中に達成感を感じた瞬間を、具体的にお答えください。

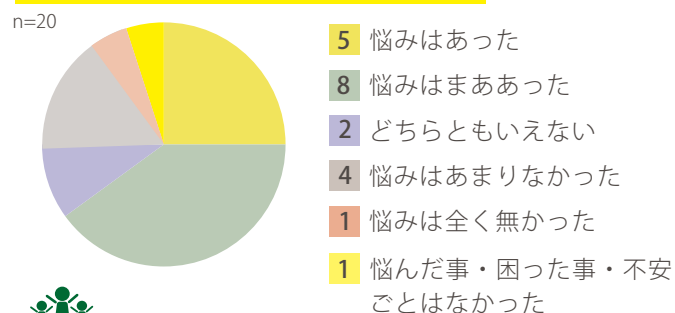
- ・自分が任された仕事はどう生かされてるか分かった時に達成感を感じました。
- ・自分の作ったものがカタチになることがとても嬉しかった。
- ・教えられなかった編集を教えることができたとき。
- ・受入団体の方から任せていただいた企画を達成できたとき。



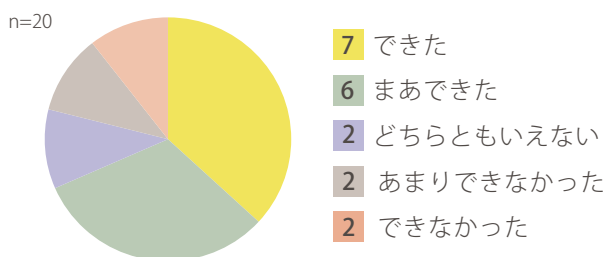
担当者とのような手段でコミュニケーションをとっていましたか。



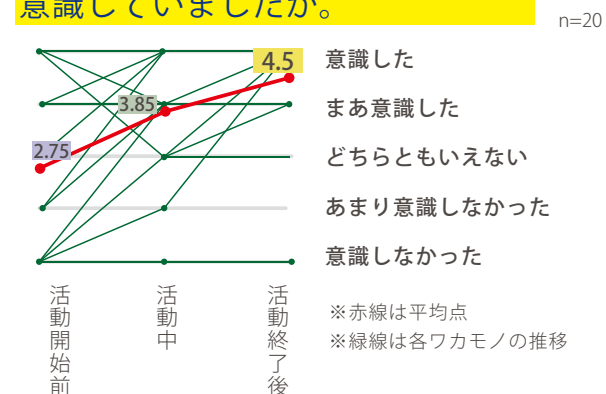
活動中、悩みはありましたか。



活動中の悩み・不安を団体に相談できましたか。

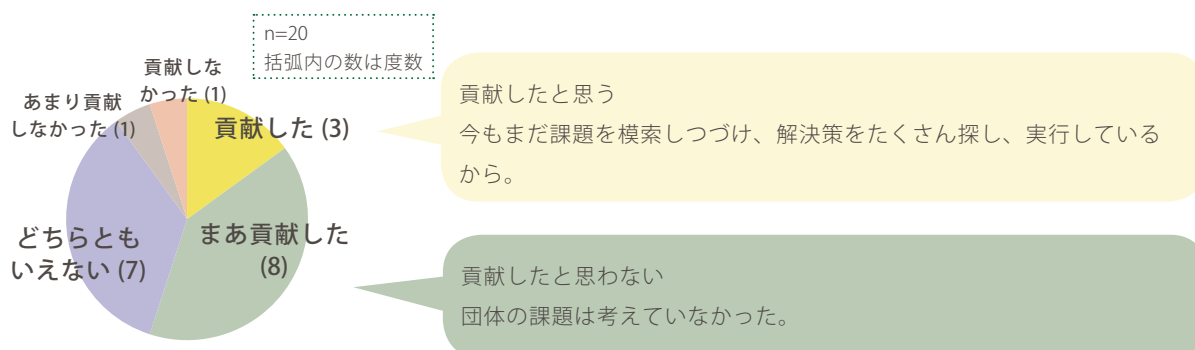


団体が取り組む課題をどれくらい意識していましたか。

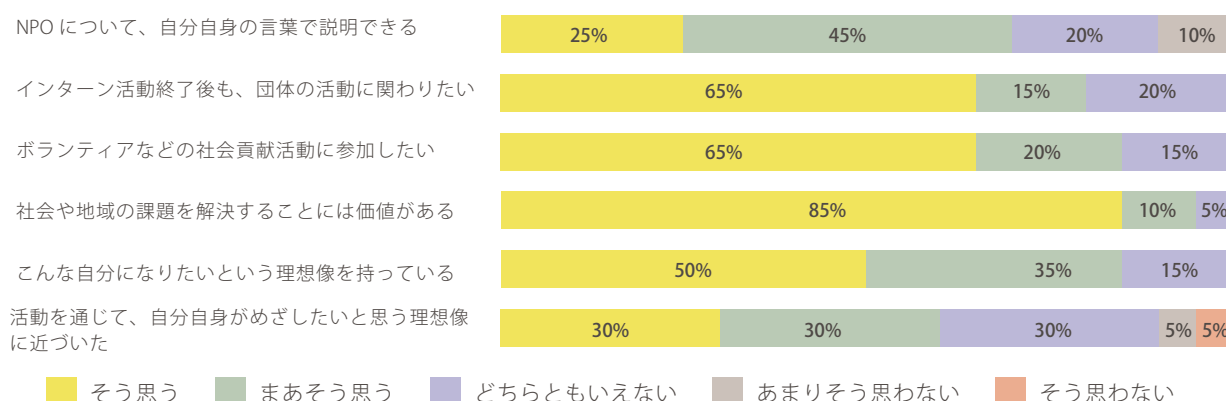




団体の課題解決に、あなた自身はどの程度貢献したと思いますか。



現在のあなた自身の考えにもっとも近いものをお選びください。



半年間の活動中、あなたはどんな「社会課題」を見つけましたか。

もっと人々に地域社会や地域環境について、知り、関心を持ってもらうことが必要だと感じた

自分の住んでいる地域の文化や問題を理解出来ていない

障がいを持った子どもでも可能性はある。その可能性をもっと引き出す方法を見つけない。

再生可能エネルギーについて、一般の人がより理解できるようにならないと、より一般的に普及させるのは難しい。

日本国内での貧富差、国際協力に対する認知度

高齢化とともに、せっかく良い活動をしていても、それを続ける団体の平均年齢が上がっており、継続が難しいところもあること。

1 期生の " 今 "

2014 年度に参加したワカモノ 1 期生から、いま取り組んでいること、または今後取り組みたいことを、聞いてきました。インターンの活動を通して得たものが、どう活かせるのか、または活かして行こうとしているのか。1 期生の声をお聞きください！



村上 紘寿美さん

現在は、大学院で文化人類学を専攻しスリランカ・ムスリムについて研究しています。この 4 月からは、スリランカに渡り、1 年間、日本の NGO のスリランカ事務所でインターンシップをしながらスリランカ・ムスリムの調査をする予定です。大学院での研究生生活は充実していて楽しく、大好きなスリランカに長期滞在できることもとても嬉しく思いますが、早く社会に出て働きたいです。

松井 彩さん

今後取り組みたいことは、子どもを取り囲む人や環境に気をかけ、子どもから精神的に信頼されるようになることです。



小山 優子さん



昨年度、一期生としてこのプログラムに参加し、地域の活動に参加することのおもしろさや意義を学ぶことができました。そのことから、引き続きインターンでお世話になった団体での活動に参加しています。今後も自分ができるカタチで、地域の活動に参加していければと思います！



門倉 啓介さん

今は就活中です。インターンで地域の問題を感じ取ることが出来たので、そのことを踏まえて、地域と関係を大切にしている企業に行こうかな〜とざっくりと考えてます。学生生活も残りわずかなので、就活を早く終わらせて、ずっとやりたかった、東北での長期インターンに挑戦しようかなと考えてます。

中村 麻梨奈さん

私は今、1 期生としてインターンをした、認定 NPO 法人藤沢市市民活動推進連絡会で正職員として働いています。1 年目は NPO 向けマネジメント講座の企画運営や、高校生のシチズンシップ教育普及事業に携わりました。2 年目はより多くの事業に関わります。市民活動を盛り上げていけるよう、今まで以上に頑張っていきたいと思います！





巻末資料

巻末資料として、本プログラムを実施するにあたり、ワカモノや受入団体の皆様とのやりとりの中で使用した、広報物やワークシート・活動記録票などを掲載しました。準備などを含め約1年間のプログラムになりますが、今後様々な地域で「ワカモノ×NPO インターンシップ」が実施されることを願い、また、本資料がその運営の一助となれば幸いです。

受入団体募集チラシ



藤沢を中心に活動しているNPO・市民活動団体、市内NPO法人、県内支援センター等に配布（3月上旬～）

ワカモノ募集チラシ



藤沢近隣の高校・大学を中心に配布（3月下旬～）

受入団体募集要項



受入団体説明会にて配布（4月上旬～）

インターン参加者応募要項



インターン説明会にて配布（4月下旬～）

エントリー団体紹介冊子



エントリー団体（31団体）の情報を掲載。インターン説明会にて配布（5月上旬～）

ワカモノ向けワークシート

第1回、第2回
ワカモノ定例会にて使用

活動記録票（ワカモノ向け）

インターン活動期間中に活動日時や活動内容等を記入するシート

活動記録票（受入団体向け）

インターン活動期間中に活動日時や活動内容等を記入するシート

受入団体向けワークシート



第1回受入団体座談会にて使用

PR実績



タウンニュース藤沢版 記事掲載時
(2015年6月15日掲載)



タウンニュース藤沢版 記事掲載時
(2016年3月4日掲載)

資料の一部は、本プログラムのホームページより閲覧・ダウンロードができます。

編集後記



「そうだインターンしよう！NPOで」この報告書を読んで、NPO インターンってなんか面白そうだな〜と感じた方へ、この言葉を送ります。繰り返します。そうだインターンしよう！NPOで。

ワカモノアドバイザー 門倉 啓介

インターン2期生の私たちから、次の代へと“つなげる”ことを強く考えました。この報告書から、どの様なワカモノたちがどの様に成長したのか、感じとっていただき、一歩踏み出していただけたらとても嬉しいです。

事務局インターン 簗田 萌

活動報告書を読んでもくれる人が僕たちのインターンでの成長を感じてくれたら嬉しいです。そして僕たちの成長ぶりを生でみてみたいと思い、会いに来てくれる人いたら僕は嬉しすぎて泣きます。

成果発表会総監督 尾上 太一

高校生の頃に入っていたNPO団体がきっかけで、今はNPOの仕事をしています。団体の一員として活動するNPOインターンは貴重な経験なので、この冊子を読んで少しでもNPOに興味を持ってもらえたら幸いです。

ワカモノ担当 永山 愛

皆さまのご協力とご尽力で、2期生が無事修了できました。ありがとうございました。ワカモノも団体も地域も成長するプログラムとして改善していく所存です。今後ともよろしくお願いします。

受入団体担当 須永 洋平

NPOでインターンしてみたい！と思ってもらえたら、と本プログラム携わってくださった皆さんと作り上げた報告書です。皆さんと一緒にこの1年間を走り抜けられたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

プログラムマネージャー 桜井 光



地域でつながるワカモノ× NPO インターンシッププログラム 2015 活動報告書

発行：2016 年 5 月

印刷：中央印刷有限会社

編集責任：認定 NPO 法人 藤沢市市民活動推進連絡会 理事・事務局長 手塚 明美

事業担当：桜井 光・須永 洋平・永山 愛

冊子監修：金田 麻沙子

制作協力：門倉 啓介・簗田 萌・尾上 太一

発行：認定 NPO 法人 藤沢市市民活動推進連絡会

〒 251-0052 神奈川県藤沢市藤沢 577 寿ビル 301 号室

電話・FAX：0466-53-7366

ホームページ：http://f-npon.jp

メール：npoipg@f-npon.jp (事業専用)

本書の一部あるいは全部について、無断で転載・複製することを禁じます。
商業目的による本書情報の利用を禁じます。

